

身延高校と山梨県立大学の連携授業

山梨県立身延高等学校

身延町の観光まちづくりにおける
RESASの活用方法

身延高校高大連携事業生徒有志
代表：藤田哲平・對馬琴梨・中山樹



県立産技短（窪田さん）と・・・



RESASフォーラム

H28年度は、QRコードを利用した取り組みで「山梨県RESASフォーラム」に参加し、動画撮影を中心にした取り組みがUTY（「UTYニュースの星」5分30秒放送）で放映されました。

高大連携講座

二戸教授（TVモニター）・兼清准教授（右下）



UTYの取材



吉田教授と大学生（身延高校OB）による講義



身延町への研究報告



MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL MINOBU HIGH SCHOOL

システム構成図（身延高校側）

身延高校側 TV会議システム(常設)

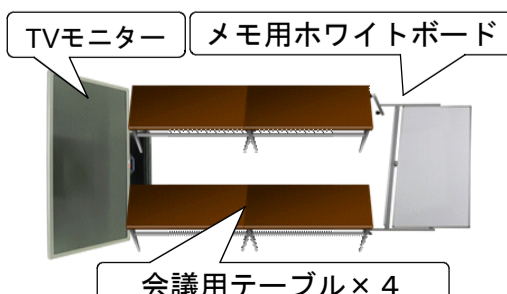


身延高校



総合教育センター

身延高校側 室内レイアウト



県立大学飯田キャンパス

実施内容と回数（H28）

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	未来の私、未来の身延（峡南地域）
第2 ～5回	私たちがつくる新たな物語 今年度の事業内容を考える
第6 ～9回	各種事業の進捗状況について （含：フィールドワーク）
第10回	「発表」

目指す生徒像

- ◎地域の中にありながら、深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる(実現できる)力を持った人物。
- ◎日本や世界に向けた情報の発信手段を考え、人と関わりながら実現できる人物。
- ◎国や自治体などに頼らないライフスタイルの実現ができる人物。

実施目的

地域の将来を考える人材の育成を目的とし、峡南地域の課題等を自ら探り出し、活気に満ちた地域社会の在り方を考える。さらに、自ら考える力、一歩踏み出す力、考え抜く力等を養うことを目的とする。

また、地域に提言することで、自らで地域社会を変革する力を身につけさせる。

現状と課題

今回の連携授業は、生徒が将来地域の活性化を担うような人材育成・啓発を主な目的としている点から、受け身の姿勢で授業に臨んでは意味がなく、いかに参加型授業にしていくかが課題である。

そのため、フィールドワークの導入やグループワークを取り入れた授業を展開していくことも望ましいと考える。

生徒の感想



動画の編集を通じてコンピュータや関連するソフトの操作スキルが高まった。また、動画の撮影を通して、事前の計画やアイデア出し、構成の検討、配役決め、撮影場所との交渉、現地での下準備、カメラワークなど撮影の過程を学ぶことができた。

RESASの活用を通じて、データの有用性やデータ分析の手法を知ることができた。また、そのおもしろさに気がついた。

パワーポイントの発表を通じてプレゼンテーションスキルが向上した。



平成28年度のまとめ

答えのない課題に対して、集団で考えをぶつけながら、よりよい解を見いだす活動を通じて、「0から1を作り出す力」「一歩踏み出す力」を身に付け、社会環境の変革を目指し活動している。今年度は、高校生の考える地域活性化策3案を具体的に実施して、その有効性を考えた。（いずれも生徒自身が主体的に取り組んだ。）

- 研究テーマ
- ①QRコードを利用した身延町HPへのアクセス数の増加について。
 - ②QRコードを利用した身延どんぶり街道のPR方法について。
 - ③身延まんじゅうを題材にした町のPR動画の作成。

自分たちの取り組みが実社会に対し何かしらの形になっていることは、生徒にとって大きな達成感となっている。また、このような取り組み事例は全国的にも希有である。何よりも「自分の住んでいる町を少しでも良くしたい」という強い気持ちで、毎回の授業に熱心に取り組んだことは大きな成果である。

生徒は、この講座に確かな手ごたえを感じている。年代や環境が違う人とのかかわり方、グループでの協働、日常生活への意欲向上、そして自分と自分の生活する町（社会）とのつながりの深さ等を再確認している。そして仲間を作って集団で行動すれば少しでも環境が変えられることがわかった。現実社会では、問題解決のための方策を考えても、それが実現される機会は非常に限られている。その点、意欲を持って主体的に取り組むこの講座の価値は計り知れない。

高大連携講座について

1 目的

地域の次世代を担う人材を育成します。地方にあっても深く思索する力を有し、発想が豊かで、物事を建設的に組み立て、課題を解決できる（実現できる）人材を育成することを目的としています。別な言い方をすれば、国や自治体に頼らない内発的な発展を目指す人材の育成にあります。

生徒が到達すべき目標は、(1)～(4)である。

- (1) 答えのない課題を考えることができる。
- (2) 自ら課題を発見し、調査・研究することができる。（考え抜く力）
- (3) 他者と協議し、進むべき方向を考えることができる。（協働）
- (4) 自らの考えをまとめて、周囲に向けて発表できる。（情報発信力）

2 概要

平成29年度は、上半期と下半期に分けて授業を行う。

上半期は、昨年度までの活動を学習した上で、地域貢献をテーマに今年度の具体的な活動を考える。

下半期は、チームを組んで、今年度の具体的な活動に沿って研究を深める。

3 生徒参加者

H29年度受講生（SKY2017）

No		氏名	ふりがな	出身中学校	備考
1	3年C組11番	藤田 哲平	ふじた てっぺい	身延中	継続
2	C組20番	對馬 琴梨	つしま ことり	身延中	継続
3	2年A組21番	丹沢 茉穂	たんざわ まほ	市川中	継続
4	B組16番	深沢 圭	ふかさわ けい	中富中	継続
5	B組26番	酒川 紋乃	さかがわ あやの	城南中	新規
6	C組 6番	近藤 佑生	こんどう ゆうき	身延中	新規
7	C組10番	中山 樹	なかやま いつき	身延中	継続
8	C組21番	高橋 倫	たかはし りん	身延中	継続
9	1年C組11番	望月 奏汰	もちづき かなた	身延中	新規

4 授業担当者

No		氏名	ふりがな	備考
1	身延高校教諭 授業担当①	川崎 義碩	かわさき よしひろ	
2	身延高校教諭 授業担当②	望月 健太	もちづき けんた	
3	身延高校教諭 授業担当③	近藤 学	こんどう まなぶ	継続
4	山梨県立大学地域研究交流センター長	二戸 麻砂彦	にと まさひこ	継続
5	山梨県立大学国際政策学部 准教授	兼清 慎一	かねきよしんいち	継続
6	高校改革・特別支援教育課	小佐野 景賀	おさの かげよし	
7	高校改革・特別支援教育課	後藤 貴樹	ごとう たかき	